慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	
Title	経済政策の極致 (アダム・スミスとオッペンハイマーに於ける自由主義研究の一節)
Sub Title	
Author	向井, 鹿松
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1924
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.18, No.7 (1924. 7) ,p.929(19)- 958(48)
JaLC DOI	10.14991/001.19240701-0019
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19240701-0019

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

つて、監 獨 智 龙 督を加 r 0 2" へる 子 r 72 事 な で \$ 72 を得 あ 0 3 2 て、獨逸 13 بح て、果 4 しな Ŋ 償 3 金 τ T 題解 は Z 12 13 決 る 堪 3) 監 督 爲 へる 0 め であ に、暫 為め らうか **** に、殆ど財 此屈辱 どうか。 政上の を蒙る 入

引 3 す 0) 獨 1-第 逸 知 用 0) ---外 12 0) 僨 程 0 行 か 度 發 τ 性 5 る 行 0) C は *I* あ 3 3 所 ゥ 11 が、倫 ズ で 自 て居 委員 あ 5 敦 其 9 τ 幷 會 3 成 13 否 紕 計 Ŀ 報 育 決 p; から 0 定 る す 17 3 17 業 要 與 は 素と ^ 此 5 は 0) n 爲 政 12 3 3 府 於 10 保 0) 1: T 證 で 12 騒 ち 望 あ 2 對し る金 3 T

策 0 極

(ア ダム・スミ スとオッペ ン 12 於 ける

自 由主義 研究 0) 一節

向 井 松

て得 も、彼が Sozialismus は、実 己心の Franz Oppenheimer 2 可含 其 0) 潑 墾 事 刺 經 濟秩 たる 生 業と云は 試 (九二九) 0 0) 序に劉 力を ጉ 才 は 氣の 12 完全な 13 0 v 紙 2 す 深 Т 上に n 3 3 ば 打 逸 3 信 經濟政策の極致 なら 及 由 建 3 ĸ D. CK る 競 τ 明 r 爭 努 **%**: 認 所 力 1 13 行 で 謂 す \mathbb{C} 於 るで 3 自 は あ V 頭 n 由 所 3 つて、此の 腦 あらう。 社會 Mo 謂 Das ökonomische 及 偉 Ç 主義 才で 共 秩序の下 才 假令異論は ح (Der Liberale 氣を あ . Z 7 以 に於ては System des Liberalen 彼 τ 只勞 L 0) ある Sozialismus) 😠 τ 論 働所得 め 文 として 經濟 を 初て 讀

土九

るが、其 會的、人 beral) であ り、他 N Ricardo Bourgoisökonomik 要な 此 72 0) 0) る修 類的 战 っつ を残 0) 72 O) Dühring 初 め 經 滅 E E こす て現代 は して の主 12 理論が共に 120 0 始まる 前 7 學. たる ルクス式集産 渚 である。 0) 加 **%**; 國 しまうも Ø 21 生ま 論 みとなり Ø ^, Ĥ 0 資本 反し 12 由祉會 代表者は Carey であ 0 考 相交は Ø H n を č n で τ 12 利 のを云ふ Theodor Herzka 發 は 從つ 潤 自 は =13 爬 欢 義 主 h か か 似 3 て又資 S 義 τ B び 71 丽 包 ので 地 0) Ų 非 對し L 7. 經濟 に二つ 擂 自 0 Ë 本 あ った。 的 せら τ 由 H で と る。 其 主 學 的 祉 旣 あ な 說 1. n 等 の多くの困難 E 貧 會 る。 9 分 H ح 7 的 本 V 主 **1**2 15 る b n n 主 義 b ٤. ق った。 分 入 る 義 3 n E 72 Adam 此 τ 0) も 亡 的 生 n ٤. ق 0 ----T 彼 世 階 7 なる 後者 は 2 あ 謂 H 2 級 は る。 此 0 的 此 3 3 倘 頂 12 0 經 Ų 部 0 先 は 0) 沚: 0) 通 前 論 濟 人 Herzka 會 分 12 は 者 灣 に於 لح 15 者 口 0) 達 自 由 的 Duhring 翻 は か 眞 消 曲 の自 Jones 6 ł: ч 法 濟 12 Æ. 曾 的 (Sozialli-會 學 極 B は 的 して 自 す ٤ 所 で ¥ 由 義 th め で 0 な 謂 1 あ から 只

て、単 7. 5 15 T 3 純 3 第十八 <u>ー</u>で Oppenheimer T ع 13 0 で す 3 科 W あ 自 る る 資 由 E ス ح 主 ス で 水 0 ٤ 祉 は 此 主 あ 1: る。 所 只 بح 0) 義 あ る。 沚 大 意 經 主 18 3) 0) 義 資 會 账 ろ 1 0) 主 本 31 共 B p, 經濟政策 於 試 か 12 T 金 加: τ は 0 3 言 た。 3 石 會 ۲ 沚 ·\$ たる 3 0) 主 E 及 會 1 1 自 が 0) 1-V. るに કુ 0 相 由 ス 經 を無 要 5 3 区 Æ Oppenheimer 會 浓 主 重 か n 0 0) 由 智 6 條 主義 次 3 主 會 は 爲 充 8 め 72 以 7 方 Ó 0 承 み 7 2 自 15 r jv n Ò 1: ع 12 " す 過 7 7)-1 全 ス 3. 13 な 2 Ø 12 る 3 72 T 0 置 意 <u>_</u> A 自 b 所 3 味に \mathcal{C} ٤ Ø は 會 は V で 何 社 あ 72 8 E 主 義 會 於 3 か T 0) あ 主 17 5 け b 主 T 2 9 12 義 然 3 到 求 H

aller wirtschaftlichen Interessen)の存在する 支配せられてゐるもので、而 B 凡て 經濟 0) であ 的利害は ると云ふので 完全に 一致訓 ある。 奴 (Volle Harmonie

Dühring, Marx 等 體 the appropriation of land and the accumulation of stock 12 Theorie der reinen und politischen Okonomie O + 私 の と ら値 明かなる相違が存在するならば、それは 濟 認め 接採つて來てゐることは彼 本 ど呼 ん 因 بح どする 0 が
所 びて、到る 共 \$ 調自由社會主義の學 に之を 自然 爸 のである 處に 以て 的に 12 原 其所説を引用してゐるので が、此 發達 因 τ か JE 點に於て t) n 當な τ 自 自 來たもので、從つて利潤も地代も正當なる とする 然 說 か 12 るものとし、之を暴力の 的に發達した結果と觀る者は ら の を説くや、彼が其思想を全然 次の點で は の結果であるとするのである。 Oppenheimer Adam Smith & Altmeister 又は Meister für のである。 明言する は其所謂 ある。 所で は ある。 則ち The original state of things Oppenheimer ある。 Karl Rodbertus, Adam Smith は其所 結果 只彼と Smith の ح Adam Smith 0 T 土地地 見る

かる ٨ 權 力 K 關 係 利 害の に 基 調 < 獨 和 する 占 的 社 地 位を 會 を出 除 現すると云ふの < ۲ ح 12 P か T 完全 である。 なる 自 曲 主 義 Ø 下 12 凡

Ø 國論と Oppenheimer 6 と政策的方面は實際に於て何れが多く 同 (Schumpeter, 設 上の せん ない。 のために Oppenheimer 8 は Theorie der reinen und politischen Ökonomie Adam Smith が富國論を編むに 智 る Epochen der Dogmen und Methodengeschichte S. かか が るに み 國 n の此の 12 _. つ b を編 0) Ø 經濟政策の極致 直 1 to 一論で 0) 17. 間に 13 5 際し あ て又 13 彼を支配したか、此の る は 自 8 重 Z 見 確 法に 大 用 £ ል C に探 彼 0 بح 0 **う** 意見 b 則 3 9 52) 然 た見 の本 0 5 存 左 圣 點 解 E に於て T v n ば は 3 なら 直ち 的方 の認 Ę は

左 Lehrmeinungen; deutsche 手 72 0) 1 躞 0 0 č 班 12 12 示 73 g す th. 상 之を < 集 3 地 於 ること、之を一層適切 9 绸 中 7)5 て「各 t で ľ 0 B 部 13 科 0) 3 てゐ B 異なれる目 ろ 國 る 12 質 n 的 3 ర్థ る。 日 考察 在 0) ど、第二國家 τ 3 து (Ibid, p. Ubertr. S. あ た ど 12 political economy (Wealth を 於て 0 云 的を有す。 くび政 e Z 濧 有 富 0) 公治家 又は 351) × 12 をして其 of Nations, Cannan's Edition, 97) つてゐる。 て ゐ ど Ċ ネヘ あ 論 叉 30 τ 51 貿易產 0) 質に 云 ば 第一人民に ので、而 ば 大 公 立法者 人民を 9 Rist D, 目 (Gide and Rist, Geschichte der τ 務 7 N. 的 D を行 も彼の K 主義 IJ. T 位. は其國の 3. の學 L ム・ス アダ なく 智 ふ爲 τ 0) 左 自 叉 ₹. 0 興味の ム・ス が又之が一 主 右 質 め D? ス 張 一分科 Vol. 富と力 (The riches 際 6 は 17 3 7 疕 15 主 か H 其 ス 頀 於 分な Ö かる 第 る ኟ きし 12 395) 更 し C 四編 る 般 b る 當 收入又は Volkswirtschaftilcher 入 τ, 4 0 τ のど見 時 收 又 Q 心 菜 入 0 17 は 象を ^ 6 絡 は 酮 and 學 又彼 生活 E Ø 12 論 此 T 渚 生, 収 **か**る。 n 13 0 power) 0 は 活 資 砂 3 8) 扱 四 走 他 料 貧 τ 0) 9 8

ح 3 1 O 7 0 E 論 8 b 蚁 5 M. U n 覓 12 3 所 ---面 0 は で 21 政 あ 11 策 30 自 論 由 T 小 =1: あ 泉 巍 9 經 敎 72 授 濟 p> 政 論 G 文 策 し Ξ 主 T H 張 或 學 Ø 富 爲 會 - 雜 B 第 0 誌 ---况 7 第 礎 # 4 進 0 ス 備 3 ح 編 ス 1 τ 紀

C で E F 0 有 で 6 及 義 12 る 30 ದ್ದಿ ので ኔያ C 經 V. つ 濟 つ Capital) 17 次 金組二 (Theorie, て、彼 學 b は、 いで (九三五) 0) 0 頂 7 **5**0 は此 **%**: で Oppenheimer は Vorwort, の 二 礎を あ 现 著に 3 化 る。 論 0 É 資 15 於 本 0 HI かっ 因 S. 80, 588) 恒 た(二)土 主 前 ч. Ġ τ 0) 0) から自 も共序 Pi 經濟政策の極致 義 Theorie 訓 占 脏 か る 地 5 Ë 的 會 の 私 b U ど 文 的 由 0) der (三)加 τ 祉 12 reinen und politischen ökonomie 害 發 用 於 は 會 Ė 之を 達し (Appropriation of Land) 資 τ 主 は 由 し 7. 云 非 祉 義 0 目 此 7 3 0) 經 會 か[;] 如 的 果 來 學 濟 主 0 說 說 72 義 0) で 的 ため く、彼 ど云ふ E あ 原 0 は 眞 凰 因 建 2 に、又喧 て、決 質で 設 カっ 說 0) 6 學 此 F 世 生 な 說 0) 6 本の 説が C T v 傅 ح 12 12 こっ 72 0 目 ど云ふ 從 土 ٤ 爲 由 み 學 地 來 め 0 72 Č 0) 前 0) 12 12 大 ٤ T 0

るの は 0) τ 自 わ で T で 曲 Smith Revolution, 致 る。 3 譋 3 å 爭 0) (A.a.O., 和 0 會 で 3 0 の結果と つて一つ で E 公 0 否 正な 1907 ٤ 說 9 宜 る 0 は 全 S Ţ 自 所、又 < 12 理 前 は 3 胹 V 0 398) 所得 於 同 V τ 証言 獨 8 12 τ 的 0 否 C 0 完全 ž. で 方 俟 完 占 下 0 得 Ŀ あ 面 72 金 か 頭 會 存 以 3 12 る 15 0 0 ۲ 於 τ τ 3 自 0) B 0 自 則 H 自 由 で 5 る 生 由 曲 由 競 叉 自 n 競 沚 0 競 Oppenheimer 爭 曲 出 會 爭 競 老 る 學 τ 抑 爭 で 的 あ 3 制 0) \$ 結 0 理 5 かる る 5 果 意 0 な 惡 بخ 見 市 12 3 てか 彻 14 15 Z 場 44 7 Č 打 13 im 0 して 0 0 義 \$ Kautsky C 生 C 經 者 之を 7 齑 0 5 N かる 及 說 Altmeister ۲ 批 び分 2 p; は 會 τ 價 Ø) 誤ま 3 す 0 は Die Ð す 3 利 0 מל 和 值 配

3 \$ 同 0) 思 想 12 基 < B 0 T あ 3

Oppenheimer 是 な の 12 現 23 0 E 之を で す は 0) F か τ あ 最 見 る理 り入 茲に る。 B 自 n Ė 明か K 由 n 只 3 Adam Adam Smith た 沚 主義 に近 0 其 τ を一般 Smith である 主 b 3 代 る 式 魫 社 從 裝の 會 所 0) 0 つ 經濟政策の極致 0 0 は 思 τ 自 丽 會 發展に 政 下に Adam Smith 想 又彼 し 曲 策 r τ 0) 貿 於 ٢ 0 表 Oppenheimer 根 易 此 の 及 7 闘す 方 H Ø は 說、產 Theorie der reinen und politischen 自 說 び 面 0 Oppenheimer の 重 re をな 由 制 か 12 Ø 7 3 度 主 業主義、從 h 於 表 カコ 說 す自 Ø 義 とする に け * n る 純 0 學 る 讓 0) カラ か 由 思 理 自 づり 12 主義を 所 つて又彼 想 論 由 12 會 Oppenheimer 的基 智 茲に 3 は Œ 於 て、左に凡 學 完全 をを 義 的 C 礎 Oppenheimer は 0) は なる E 0 意義 6 其 Adam 72 T 15 富 主 0 の上 Ökonomie 純 要部 自 す 0 0 明 阩 理 由 經 濟 妓に ĺÝ 占 爭 ષ્ટ は 丈 0 方 n

第十八卷

(九三七)

諭

極致さる 譋 經濟 政 云 策 0 極 可 狡 \$ は 分 P D's Т 叉 商。 る の0 學 祉○者 會0 の 的o意 意 見 義0の ۲, 大 要 な Ŀ る 0 C IJJ する。 30 ihi L て ※

當 0 0 ζ(• 80 云ふ考 τ Schumpeter $\overline{}$ τ 25 差 瓷 少 3 0) a 12 Maxx た法 難は 於 0 b τ appropriation 0 0 72) 歷 Fir で、所 3 史 ス Ŀ 0 Kinderfibel 有 0 必 Ŀ 者 地 云 11 0 L Z 育 3 K 産(土 葉 づ L H Okkupation 11 る た る Di B 0 含 0) 75 ひしゃ 利 か 궄 五 3. T 有 て 部 つあ す

註 組 織 永 (Y) ATT. 9) 16 Mises 衍 3, Ç 襟 Die Gemeinschaft 1922-準 ટ 7,5 る f 0) Ţ. 0 p. tþ `` 15. 8 f. 賀 泚 值 ~ x 7 4

Process Process Description

言 Adam-Smith F. 72 しこと 所 で あ 亦 る。 0 富 削 國 巡 丽 L τ 72 から 所 彼 τ は め 經 政 る。 濟 策 政 0 然 策 目 か 的 0 b 目 智 邌 ਿ C 为 す 其 る 目 手 國 的 段 0) か 富 ኟ 國 及 富 C T 0 力 0 カシ 進 增 12 あ 12 あ Č ح る は 世 ۲

ば る 三文 K ム・ス 8 3 洪 は す म 则 手 は 生 第十八卷 は 3 3 5 産 13 3; 0) 2 (九三九) 共 C 大 富 る 加 著 12 3 智 1. τ 0) 必 T (ア ダ An あ 産 及 30 歌 7 inquiry into び 之 ム・ス を 經濟政策の極致 Ŀ Z 因 <u>ئ</u>ر ج せ ス C 0) the **3** 探 第 3 Z 3 Nature 办3 E L 如 す 0) 0 法 7. は(二)生 111 亚 and 來 後 な 場 題 初 3 を V Causes す E 0) 0) d'y 趛 T で 7 E Ji" of O 知 は 勞 あ す 12 あ ム・スミ L the 3 働 3 3 3 3 5 ĬĽ 業 者 で で 40. 2 Wealth 3 τ 則 ス Ł 0) ス 參 5 ħ; 行 12 3 第七號 of, 延(派 出 ふこ r 念 銀 來 Nations 濟 7 0) け 號 0 3 政 12 國 b 念が を 0 策 於 ۲ \mathcal{C} 必 0) 富 7 3 3 Z あ 兹 詳 か 11

さす て論じ は第二の分業 たのは第 12 <u>ー</u> J 資 3 生產 本 1= 關 力の増加 1 8 問 L 題で 從 つて あ 9 义國 75 富 而 の増 L T 加 本 論に於 12 關 Ť τ る 論せ T 6

0) 3 肾 0 進 12 Č す 0 3 る 共 富 國 之を で 12 0) あ 於 見 3 V) ح 3 Z 置き、 2 T E ゐ 而 る。 じ τ T (A 孙 業 0 は る。 S 0 77) (Rist, 根 何 本 丽 n a.a.O., 的 考 C r 富 民 論 0 全 は

Bücher, ろ す 交換 る Š 市 ス 0) 場 Entstehung der Volkswirtschaft S. 0 は consequence) 大 生 1r 小 n は 12 15 3 8 L が > って 13 9 度 12 で ح 决 は せら L ilī 7 3 72 交 n 换 0) る、從つて市場大 KJ. 廣 72 ح 0 315 代)第二 後 狹 世學 r T 0) 而 有 園 す 7 0 0 分業 15 業 3 n 0 原 此 ば 行 0) 0) 因 孙 交換 は を で 富 業 3 72 ある 以 O) 充 て、人 0) 7, で 加 12 は L あ Ø 9) 行 る 原 心 性 因 結 n. 曾 此 12 12 其の 0 宿

し支へ ス 12 迅 交易 速 の 12 1 增 る。 進す 15 5 3 曾 ح 3 Ä 0) 0 Oppenheimer 關係其生 で 說 あ は 3 ---産 定 0 經 力 の 濟社 增 意 進 味 に闘す 會發展に 1 於て る Ŧ 關 説を系 古 す 0 る 真 叙 理 統 述 ح 的 13 は H ini Ø b C ス 差 朋

П

7 2 N τ τ 25 四 す Ŧ 百 產 勞 力、彼 25 r. 百 する ie P 0 可能 E 造 τ 倍(vermillitnonfachen) す 2 τ O., S. 語に 國 富 型: t 0) ¥ 7 138)后 說 12 B H ば 3 < 泉 る 12 對 生 L 力 3 3 分業 (Beschaffende 0) ことを説き、土 て、(Ibid pp 6-7) 彼 力 9 富 iv 增 0) 0 12 加 源 139, und auch S. 例を舉げ、之に P するもの 泉たる勞 5 Kraft) や 12 地の Oppenheimer Oppenheimer 人 で あ 口收 は t 其 つ る 組 勞 力 例

0 なる 生產 力 0) 増加を生す る分業及び 結力 (Arbeitsteilung und

第十八卷 (九四一) 論 貮 經濟政策の極致

第七號

τ 遠 Arbeitsvereinigung) & Ī 占 b 知 0) 0) 0) E 第 3 は 交 U 女 子 1-0 は 3 13 加 3 0) 初 か あ る τ で 7 ス 3 8 あ 生 云 富 12 を す す か、其 B 增 3 3 0 30 な す 5 原 で T. す V 因 30 (Ibid 3 あ 從 3 如 る Ø 女 Ł 0 0 何。 Ó 手 Ŧ Ø 業 15) 则 9 第 0) 5 叉 0 0 2 别 Adam-Smith Ħ. 5 T 通 ūli T 7 几 太 3 あ 0 存 間 b 會 3 古 で 7 3 0) 7 的 肵 分 は 12 あ 自 P 謂 ح は 3 0) 交 此 遊 渝 K Ŀ 40 ည る 0 は 又 0 0 必 要 R な 5 75 は 何 つ 題 ŵ に答 H ず , 7 15 ኢ V: Bücher 92) 世 强 考 0 ď T 又 凡 要 人 は 0

で 7. す T 充 Ħ. 生 女 は کے し 分 12 حع 業 b は 0 必 ч で 己 (Oppenheimer, す は V 0 3 子 狣 T て、此 b 會 及 Ö 31 T 0) C る。 故 め 分 S 女 1 95) 子 智 行 產 以 12 は 13 n ず 力 1 す Ŀ る 所 0 自 分 别 加 で 己 皆 0 8 は C F 因 次 る 3 す 而 O) τ 1 は Z 7 15 で E 進 此 物 業 あ 6 す 力 12 E n 3 2 0 V) 必

1-3 故 業 12 K 會 7 生 分 力 增 生 加 \$. Ò る る 分 會 で は あ る。 っ 江 0 協 力 力 組 は (Co-operation) 分 業 لح L 0) て之 反 圃 C をな を見る あ 3 す 時 現 は 象 5 分業 で 分 あ 業 叉 る 13

(九四三) 論 脱 經濟政策の極致

第七號 三三

る 3 0 る V る な 力 12 0) る 0) で ጀ 分 τ 12 は 爸 る n 富 生 T 見 人 産 (Vol. 智 而 72 け N 力 15. H 0) 0 る b n بح 0 C 增 な 綜 す 共 叉 も、之 T 括 3 加 語ぞ 分 ح は 少 b 2 Bücher 云 業 な B ٤ n E 0) 太 見 1 社 0) で n 技 技 で 會 3 b 72 T 此 狮 術 B 分 Ø 3 あ 旣 業 協 見 的 <u>ب</u> 0) る 1. 的 12 重 利 8 問 で 0 地 力 指 (Bücher 题, 3 あ ħâ z 反 p) 摘 (Co-operation) 面 5 E 示 以 3 見 b す 外 は 1 多 B n 12 יו わ < 寧 7 1 D) から ば 3 說 3 0 協 於 P 3 業 人 5 \$ ч. Ś 力 Oppenheimer 云 0 义 1= 13 T 266) 3 勞 重 る E 字は Smith 働 大 富 否 なら 3 か 13 0 0 D) 國 Smith 協 な は で る D は 泚 力 單 あ 意 3 0 4 會 0 1-0 三四 用 で Ŀ * 力 Ø E 團 12 有 1 以 别

正

Oppenheimer V 0) 12 所 7. 7 かる 贞 あ 1 理 る 2, が K ス 3 7 DS. ス 分 值 35 5 業 交 12 13. 换 承 गां r V 場 容 0 T 廣 n 分 72 狭 業 12 成 所 で t 立 あ 2 0 T 3 原 因 則 限 Z 5 梦 G 彼 72 は n 2 分 3 ど 業 は حج 0) 世 成 人 72 ĬĹ. 0) 點 批 0) は 條

3 8 づ 7 合 4 T 7 要 來 會 n 3 0 17 な ば (九四五) 技 0) b 8 E 3 U 生 粉 T Z 0 3 此 E p 集 0 祉 的 冰 T. 以 云 會 合 阴 0 17. Til 13. 7 冶 から 的 0) b 合 Z 來 要 分 屋 分 か 的 12 で は 經濟政 需 12 S T 75 業 0 分 要 市 增 あ 農 Þ は 策の 充 3 具 ४ 加 3 あ 次 疋 5 會 3 双 力 * 3 物 其 を 0) る 3 土 合 可 錠 增 生 能 地 10 Oppenheimer C 加 何 冶 們 要 0 其 0) ፘ (Der C 高 1: 人 會 立 あ 0 ょ П が 關 荷 3 初 的 M ښ. 分 3 收 Kollektivbedarf) 13. め T 容 定 7, τ. 力 0 0) mi 金 Z 8 8 度 で 17 B H 1. 13 屬 か 12 以 富 1-力 加 3 すい が 逢 7 1 る n 國 發 る 說 出 3 養 ۲ ば 論 0 猍 1ılı a. 云 72, 祉 以 Ω 1-7 6 7 X 會 C 13 T す Ç 又交 3 則 ľÝJ T R 定 見 理 凡 し 5 人 分 0 は 96) る J. 化 R 由 T 利 0

之を T 72 ん った n 12 翻 以 0) 7 M 12 結 は ح は T B ッ 使 局 發 n な 時 現 用 Z 3 3 す E か b 文 ば 13 3 0 0 3 分 尚 旣 用 つ で F 業 姚 0 かず す τ 及 あ あ 世 創 百 3 30 結 3 \$ 造 年 0 力 集 者 0 な E 國 從 而 合 Z 用 1 0) L つ 號 需 Z) 北 0 生 7 7. 要 す 6 C 較 世 叉 0 る 的 h あ 祉 力 合 此 尚 3 2 大 ح 需 會 强 0 要 增 的 大 少 な 3 加 0 分 13 15 つ す る 12 T 3 力 は 8 集 沙 旣 C 會 な 合 當 17 0 で n 需 蒸 12 時 高 分 あ K 要 外 汽 Ł. が る 盆 0 13 0 ----定 加 利 23 由 0) 會 と 高 V 用 俟 0 的 Ø Ą. 3 15 分 2 T 達 Ş 化 τ あ し T は 初 る な 7 で な Z # 盛 め Z

六

又 力 力 --定 17 6 ţ 0) ば 限 0 度 T 合 23 制 需 存 限 要 在 Ŀ 增 受 す 大 und 30 < t Dichtigkeit 3 ば 换 B 無 0) 言 制 で す 限 der n あ 12 3 ば 社 Bevölkerung) 集 會 Ã 合 的 需 ည 分 0 要 化 0) かず S 增 分 行 100 業 大 は (g) 及 は n び 尤 其 3 結 b 沚 D) 力 土 會 ع 1 地 0 X L 0) 土 ዹ 此 2 地 بح T 0 0) Z 茈 物 n 資 12 口 12 産 收 は し

3 食 力 0 土 ___^ 的 す 0 法 地 E 立 力 0 3 定 0 0 方 八 は 生 之 或 世 T 0 0 0) で 2 で 3 之 3 あ 力 上 定 は 3 0 r 13 0 77 T 3 漸 增 0 3 土 0 T 火 此 大 地 ح 合 法 12 72 分 あ で 30 需 则 ع 753 6 泛 業 क 要 今 要 亦 及 世 0) 25 は 而 常 V) h H 12 定 增 す 來 3 太 1: 1-14 第 加 3 0 商 地 0 力 3 ---0 万 か 富 1. 0 る 1. 0 0) 则 で 其 至 17. d 效 勢 25 力 は 间 め 0) あ 果 存 力 智 Z. 13 3 あ 1. 在 る 窳 有 人 3 蓬 於 بح す 45 力 П る 共 τ 3 જો 12 す 12 の 互 0) 高 5 3 12 1. で 0 0 0) か 方 相 で あ 分 で 1 す 經 業 12 矛 す 3 12 あ は る 3 0 1 は 3 及 發 3 土 9 す C 選 在 地 ч 3 茲 業 5 0) す ----1 Ø) Mi 0) 土 Ŀ 土 力 於 3 文 人 9 地 1: 地 度 ~ П 0) 0 ~ 於 T بح は 收 勢 人 か H 3 8 容 は 增 沚 П 力 る 遞 Ħ.

T 歪 12 ኟ 3 V) 3 云 6 £ 0 現 象 لح E な 自 芯 方 つ 起 Ø, τ 移 尺 す は 1-間 Œ 17 3 は 3 所 般 人 B 出) 爲 以 1 0 す で で 行 1-あ は あ 3 n る。 限 6 3 3 t #1 弱 b 21 ば ည τ 者 於 其 0 č 0 T 0 S 0 Λ 進 98-104) 爲 鹟 D) 步 的 境 は 停 臘 E る 脫 沚 退 滯 44 义 す 會 は は h B ٤ 分 Ø) す 裂 者 3 3 15

t

τ 则 0 見 肝芽 5 道 る (Integrierung) 12 to. ょ 此 從 5 は \$ 12 0 8 2 1) る 政 15 7 方 汀 治 法 3 る 又 法 的 は 集 消 來 ---12 で 0 始 13 合 J 化 0 的 需 3 6 v で、二 30 5. I 0 方 要 集 b 法 で 於 は 經 大 合 丈 あ 濟 T る 13 需 ず 口 祉 3 要 は 3 0) 經 會 0 15 稠 極 0 < は 密 生 度 L 收 9) 12 て、 化 會 容 度 漟 E 倘 力 力 は 組 0) 積 つ 織 12 極 達 極 ず 0) す る 度 的 3 方 3 多 12 0 ٣ 數 邌 方 元 0 ع 0 法 L 72 T で で \$ 12 3 あ あ る 社 る 行 3 武: • 會 會 的 Ŋ 何 經 p; 會 n る 濟 n 合 E Ø 祉 同 で 救 Ø 會 發 -段 0 3 す 漟 ٤ 集 3 同

0 C は 1: は T は 9 R 者 社 手 E Ž T 0 炒 त्री は 4 質 は 17) 和 現 衍 曾 發 0 5 1 ₩. C は 會 (Marktgesellschaft) を 交 炒 る n 濟 る。 擴 换 段 し 祉 12 大 义 17 る τ 曾 す 品 は ح 3 運 بح 祉 商 3 產 8 會 合 到 交 業 力 1 が、文 換 弦 し る B T E 處 1-化 以 構 42 集 15 13 9 1 成 0 3 4. 뽦 13 は 大 T. 常 I 要 3 15 業 尚 1 業 は る 至 から で で 0) 且 B る あ 大 合 達 つ 生 3 3 需 ts し、 其 0 化 Ţ 結 本 で 0 あ 此 30 會 0 E 業 あ 0 T 增 は 經 بح E る 加 J. 间 ح 祉 な る つ 1. 7 而 b 分 τ 會 j 問 2 化 仕 T Ŀ 題 T 2 Oppen-で E 影 间 此 7 分 あ 商 H 0) 13

し 家 は 如 内 3 外 त्ता 12 場 於 經 T 濟 弈 は 和 國 治 家 經濟政策の 安 0 垫 成 갶 維 持 E す 以 3 7 0 初 必 23 要 T 其 1 迫 頂 Ğ 上 12 3 達 1 B す 0 3 で B 0) あ 9 T て、而 あ 三九 る

第七號

7 13 0 る E 4 路 和 水 2 な ps 3 業 3 21 蓬 で 72 3 あ 國 B 3 家 12 A は 最 自 而 B ໝ L か I 0, てこ 5 要 肥 な 107-9) 0) 12 3 道 國 爲 路 防 E は 及 あ 商 U る 業 治 **p**> 發 荽 6 維 遂 で 持の 0 あ 爲 300 め 必 Σij 要 更 第 b) 1. --b 又 交 Ø) 自

V 其 0 的 の 障 る 行 V 凡 因 ح 輸 12 的 は な 勞 n 13 T 3 H. 0 售 9 る 發 3/2 展 分 0 3 度 圍 K 政 可 は 力 11 3 此 冶 能 r 質 運 0 運 12 性 進 進 0) 及 的 障 分 化 び 0 0 12 す 運 化 大 z 害 3 濧 少 惹 بح 小 L 0) 搬 用 第 す 0 Ξ 集 用 8 3 U 0 和 具 制 大 0 る 化 简 化 1= 約 D 0 12 ح 小 1C 結 存 同 分 す E B 本 如 在 B T 9 U 合 何 亦 關 經 0) す B 約 則 12 限 る 係 濟 Z 0) E 界 し、 了 絕 此 ž 心 果 から Ţ 3 0 劉 會 有 で 出 あ 0) す 存 b 的 る。 す Ŀ あ 來 費 B 0). 化: 障害、 進 3. 用 る 9 0 で す 展 7 B で 丽 0) あ る th. 0) 分 Ż W 大 あ 3 Ø 化 Z L 貨 る で T 小 0 U 0 あ 0 要 此 11 で 而 3 極 る 價 0) す 然 商 L あ Â. ۲ 運 は 3 值 品 **D**> τ る ع 集 搬 1: 12 9 စ္ かり 此 .0 尙 化 祉 存 0) 商 丽 0) 機 を 隨 曾 在. 運 L 5 Ņ 生 槭 す 1. 害 T Ø) ľ 於 る 此 は 目 0

邌 孙 3 E 1: か 增 力 ç 有 ינל す 0) 智 進 O) E S す 0 3 ---112) る す 12 3 加 大 E 3 場 3 至 17 經 逩 土 12 b 合 12 至 m 7 r. 4b 0 的 は 汽 \$ し 生 0 3 去 集 る ~ de 2 じ 中 之 1 以 口 0) 0) 及 1: 3 T 前 收 1311 U 3 â 容 邂 あ 1-17 1b 3 會 歪 更 力 祉: 至 Ġ τ 13. は 會 3 網 3 他 增 自 而 12 12 r 再 0) 然 於 加 0 は τ 的 で CK 只 で V 3 ے 新 义 7 政 あ あ 0 n 祉 は 3 5 集 治 3 力 口 政 15 办3 は 會 合 的 冶 İŞ 5 需 生 運 か る Ľ 要 輸 0 密 0 的 יע 運 運 T 新 增 如 ٤ 0 る 空 輸 is 耶 加 輸 障 中 0 b CK 12 0) 害 12 運 し 0 £ 障 結 輸 7. 集 13 あ 蓬 の、完 審 3 址 害 儿 合 る L E 集 E 會 收 需 0) ħ. 7 除 3 成 12 穫 要 遞 ጀ E 去 T T は は 全 法 之 す 滅 賞 分 あ A 自 Щ 现 る る。 然 類 ¥ VC. Q) 1 法 0 伴 L 更 かゞ 的 貫 E 得 力 運 6 则 3 £ 包

1

れア 以 第十八卷 Ŀ 逃 ムース ~ 15 : (九五二) スが 所 0) 分 當 業 國 論 論第 0 訊 發 مبت 迚 編 經濟政策の極致 it 第 集 三章 合 需 要 21 0 孙 增 業 加 は ति 12 ょ 場 3 0) 範 E 盧 Ź 1-ዹ 考 ょ は b 第七號 言 制 限 葉 4 6 Ł 四 巽 12

13

3

8 3 0 Z Z 孙 題 で 說 2 F て、其 き、又 0 17 小 例 は ~ مح た所 る τ 度 0 於 運 は 搬 τ 典 夫 場 門 0 0 如 範 的 3 0 圍 衍 大 は 0 L I 大 廣 72 都 職 狹 市 鍛 0 0 冶 12 度 1: 於 職 1-0 T 成 つ 江 3 C 了 分 V 得 業 0 な z C b 6 b T る。 ح 成 る 立 Ø 說 ħ 0) 得 で スミ V る T あ 所 3 ス

τ あ 垫 0 3 更 る 都 地 12 त्री 方 から 0) は 產 水 業 接 運 觸 は 0 し 早 便 Ħ. < 冷 12 發 त्ता 交 逡 場 换 す E す 3 擴 る 大 ح 2 3 ٤ E 3 12 訟 15 I V 容 7 2 7 か 13 双 3 3 方 0) 而 0 事 產 L 實 業 7 E E t) 舉 增 d) げ 進 る カ・ th 便 D) 12 3 U t 水 ፘ 9 運 論 τ 0 C 便

12 ጀ 言 之 0 菜 12 ĸ. 2 17 於 で 考 τ ス 12 ば 3 出 Oppenheimer ス づ 0) 3 述 b 0) ~ し で 25 所 あ 集 12 つ 合 τ ---需 層 彼 要 0 n ح 掰 は 名 之 究 づ E 0 V 集 加 72 合 ^ 0 C 需 は 經 要 ス ح 濟 3 分 祉 ス 業 會 25 則 發 市 5 展 場 泚 0) ح 曾 說 Ī 分 圣 9

は 7 1 ム・ス 3 ス % 自 加 貿 易 8 主 脹 保 頀 稅 12 区 對 l *72* 有 力 15 3

《產 ム・ス 本 T Ŀ 出 力 的 で 3 第十八卷 0 貿 其 あ 35 ス 3 つて、又富 紀 自 0 111 Ŀ 3 120 念 13 b 6 (九五三) から 21 159) 生 す τ 其 b 國 ¥ 消 高 産 稿參 9 0 費 論 τ ٠ ب 渚 第 襚 で 第 0) 准 翰 關 己 ļ あ 唯 E **一**版 は 9 で 3 0 ч. す E 21 慮 12 か 經濟政策の極致 3 は 3 Ш નુક Mercantile 發見 淵 2 難 9 5 的 T 12 世 L 只 C 12 3)) · 定 あ C し 可 9 9 砂 す 9 得 System 3 τ T 3 3 3 b 0 3 (Ibid, で ð 云 F Z 生 3 0 產 3 資 0) 文 で あ 結 る。 dd. 產 3 力 方 何 あ 論に あ る、と 0) 间 で ð 自 418-9) 利 る は か 方 あ 尤 0 山 33 云 B は 盆 貿 祉 3 不 彼 更 7. は 邌 0 之 思 Ď: 7 2 は r 5 か 議 弦 n 3 る 3 51 τ V 者 Ë 加 n 7 る T Ľ 0 13 中 由 利 章 ム・ス な T b 6 r 盆 3 る 1 鑆 13 0) 3 0) (W. B 於 3 3 Mi

四三

は Ξ

L る 事 13 9 3 否 T 國 3 τ 富 r は 0 る 0) 3 3 * E 防 孙 分 3 ス 批 增 業 E うに 0 \$\$ 33 (W. of N. 便 3 述 品品 あ 75 C L p; 12 國 ~ る V E τ 出 īlī 輸 地 Vol. る。 涨 場 ゐ る 出 方 出 ば を 0 0) し、之 3 3 0 か 國 し ŀ٦ で 狭 産 內 τ S 貿 is 12 外 る 则 隘 業 0 自 E 352)更 國貿易 3 5 Ţ 對 上 生 市 3 1. 產 1. 4 (Ibid, 場 \$3 利 7 12 力 7 0) 故 は 益 0) Ö 擴 稅 12 其 418) は 大 Ż 國 あ る 此 冷 步 3 0 0 は は ど 最 0) 6 他 土 揚 tþ. 3 高 地 0 所 止 ረ ^ 產 勞 る 度 物 (= 0 少 E 力 時 1 Ł 於 3 0 は 發 0 τ 3 分 邌 入 產 者 業 \$ す 物 國 之 0) Ŀ 發 30 る 12 0 る 額 か 12 見 蓬 阻 ڪ ح L 貿 B 0 ど 此 T 0) 價 0 す 生 0) 0 自 で 0 值 る T 手 國 あ は B 力 涨 12 躞 盆 る 滅 0) 貿 Ŀ 12 增 な 17 2 2 少 C 易

九

15 Æ 0) 人 **滾**見 は 弦 1= 12 次 再 0) U 如 Oppenheimer 3 結 諭 12 到 12 遂 す 2 3 7 P 0 で r 結 3 ば h ع す 30 前 1/2 叙 迦 來 12 2

- 運 輸 0 隙 害 少 な É 12 從 N 經 濟 沚 曾 0 領 越 は 大 7 15 3
- $\stackrel{\frown}{=}$ 會 領 大 3 15 3 13 從 U 合 要 大 بح なる。
- 大 ح な 3 つ T 祉 會 的 及 C 技 術 的 分 業 及 C 結 力 は 忿 k 發 達 李

3

四 8 0 Z) で か 3 力 0 展 す 3 12 從 2 τ 生 產 能 率 は 大 3 次 社 會 0 當 は 增 進 す

に 於 τ 富 進 0) 經 政 策 E 出 L 來 3 の は め 生して 容 易 T あ る。 则 5

T 0 0 Ø 源 1 あ 0 產 力 7: あ

る。

- $\widehat{\Xi}$ 0 生 力 を 殆 h 7, 12 迄 增 加 得 る 0 C あ る。
- す 3 1-(1) ح 協 は 力 生 0 條 力 8 z 作 改 す 3 良 0) す 手 3 段 T C あ (2)協 る 力 至 阻 止 す 3 力 K. 弱 め 之を 除

Ti 批 經濟政策の極致

PU

平 人 0 3 0) ۲ 8 利 力 E は 云 0 0 支 有 阳己 B し す 0 2 3 で は 12: 所 2 đ) τ 法 3 命 文 身 館 體 上 0 L 及 不 要 る び 4 經 は U 法 濟 は 0 小 E 存 す か 力 あ 3 は 1 人 處 3 0 1. 財 w は 麄 行 生 1. 貧 窮 法 n 力 律 土 な 0 凡 源 0) 6 泉 保 T 51 3 Ł E 人 個 生 か

2 的 Ill 0) 纵 لح る DS. 0) から で 共 12 自 生 3 あ 1: 協 產 ば 12 6 3 坤 交 D 力 加 0 T 通 b 0 業 は す 鄮 人 で 增 政 之 爲 3 Oppenheimer 辔 12 あ 進 策 E 的 2 於 る。 12 I 除 及 會 は H あ 業 去 び 運 的 3 则 政 す 政 生 は JŁ b 策 لح る 治 産 0 經 τ. 党 č せ 商 力 濟 ば 0 全 業 ح 管 0) 心 人 了 政 經 23 害 增 E 會 爲 る 濟 策 H は 加 玄 法 0 的 學 W 來 經 1 發 制 律 政 叉 0) 湾 0) 漥 限 Ŀ 证 政 當 的 9 で 策 0 0 0) 場 然 理 ч. あ 爲 撤 4 変 ょ 除 30 0) め 通 廢 等 b 去 以 み 12 是 祉 見 す 政 外 自 T 個 策 會 T H] 0) 8 然 人 構 永 等 あ 或 \$ 除 的 E 30 總 成 人 b は 夫 運 對 0 T 11/1 Z す L 0) で J る 0 T ည 員 實 質 5 đ) 隨 完 際 Ç 際 K る b ٤ 害 全 し 政 强 ያኔ は S 策 7. 濟 \$ 出 人 138 0 は 學 他 來 口 完 只 Ħ f.) 0 0 る

な

る

13 Y 人 Ħ 12 12 τ 0) 山 1 貿 至 ح 3 2 は 3 Di: 0 处 3 12 存 I で 0 る 人 產 す 業 生 祉. は 72 کم (Vol は 會 0 Ţ 11/1 0 τ 力 る 削 職 は 0 Ċ で 可 云 得 る 內 0) 爭 利 分 0 E 184-5 3 如 E 2 除 經 發 1 理 は < は 3 8 3 换 去 と 云 叉 Ш 果 撣 濟 業 皆 此 Ill 公 含 從 資 1. 共 ス す 少 T は 的 0 6 0 0 來 本 下 L 事 3 農 7 迫 E. 業 ス ば Oppenheimer 業 わ Ŀ 立 階 T 3 及 から 彼 人 る 勞 加 級 爲 せ 令 U 國 は 0 働 3 施 0 は B 家 る 蓋 設 懷 幼 17 0) 度 Z L D: 之 0 は 0 E 败 勞 其 入 = 1-分 麄 た 現 自 理 持 る 職 E 由 曲 あ 制 以 山 ٤ 資 分 主 農 得 る ح は 限 C 5 B 12 木 村 \$, 資 0 國 0 Ŀ 主 0 る 本 あ 業 自 防 b to 主 3 爲 Ţ る 治 稅 0) 由 12 T 3 經 1: 義 蓬 8 放 は Ħ 濟 る 安 絕 E 胹 0) 資 任: 及 田 沚:

筄

七號

第十八卷 (九五八) 論 説 經濟政策の極致

號四八

んとする 々吸收するからして、共に賃銀を騰貴せ Adam Smith 及び Oppenheimer 説の大要である。 が生産力増進の點 しむと云ふの から自由主義を理由附け T (A. a. Ç S. 520)

革命期の羅馬に於ける社會闘争續編(一

橋誠一郎

高

72 Ø 第十八卷 氏が (九五九) 再現しつ (Corpus Inscriptionum Latinarum, くあ n の憲法は 革命期の羅馬に於ける社會闘争 るを看出す可含であ る 如 紀元前三百年 なる民主政 る。 は て强大な より百五 た。 483 foll.) 表中に 力の 往昔 る寡 內最 は固 大 は 瓦 や同 る執 0) 9